



共通 KPI について

2018年6月29日に「投資信託の販売会社における比較可能な共通 KPI について」が金融庁より公表されました。これを受けて弊社においても本年3月末以降比較可能な共通 KPI の3指標を公表してゆく予定です。加えて昨年ではありますが2018年3月末を基準とした共通 KPI が集計出来ましたのでご報告させていただきます。

1 運用損益別顧客比率

グラフ①は弊社に口座開設をされたお客様で2018年3月末現在投資信託を有するお客様の運用損益を損益率ごとに区分し、マイナス50%以上からプラス50%以上のお客様の比率を8段階に分けて表示したものです。

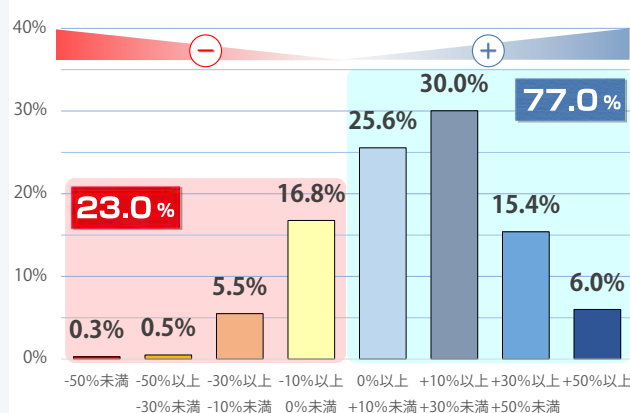
利益が出ていない(0%未満)お客様は23.0%である一方、利益が出ている(0%以上)お客様は77.0%となっております。

また、2018年3月末現在お取引を頂いているお客様の全金融商品にわたる通算損益をみると、利益の出ている(0%以上)のお客様は77.7%となっています。

* 運用損益は、「基準日時点の評価金額+累計受取分配金額(税引後)+累計売付金額-累計買付金額(含む消費税込の販売手数料)」を「基準日時点の評価金額」で除して計算しています。保有期間中に移管等による入出庫があった投資信託、外貨建MMFは計算に含まれていません。

* 通算損益は、共通 KPI の運用損益に既に売却済み、償還済みの投資信託、債券、外国籍投資信託の運用損益を加えて計算しています。(外貨入出金があった場合、当該口座は計算対象外としています。)

グラフ① 運用損益別顧客比率

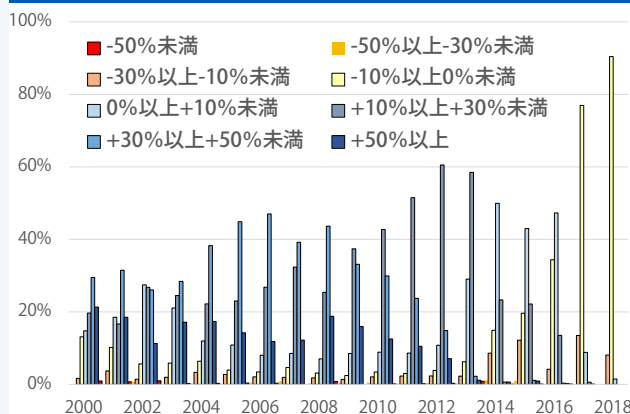


口座開設年別

グラフ②はグラフ①を2000年から1年毎に一覧としたものです。

古くから口座をお持ちのお客様は0%以上に占める割合が高いこと(0%以上は青色系統で表示しています。)が分かる一方、2014年以降は薄黄の割合が増加し、特に2017年、2018年は半数以上のお客様が0%未満となっていることが分かります。

グラフ② 口座開設年別



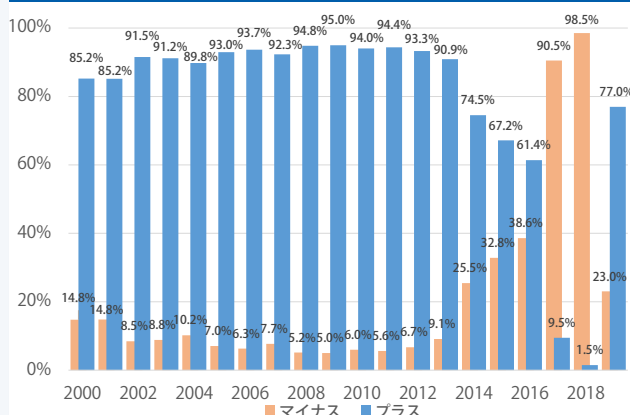
口座開設年別(損益別)

グラフ③は2000年以降時系列で見た損益状況を0%未満と0%以上の2種類で推移を示したものです。

先ほど同様、最近口座開設をされたお客様の運用損益が0%を下回る比率が高くなっています。

足元の市況要因が主因と考えられますが、逆に2007年、2008年に口座開設されたお客様は、リーマンショック当時運用損益は大きくマイナスとなっていたはずですが、その後も投資を継続することで結果的にはプラスの成果を獲得されたものと思われます。

グラフ③ 口座開設年別(損益別)



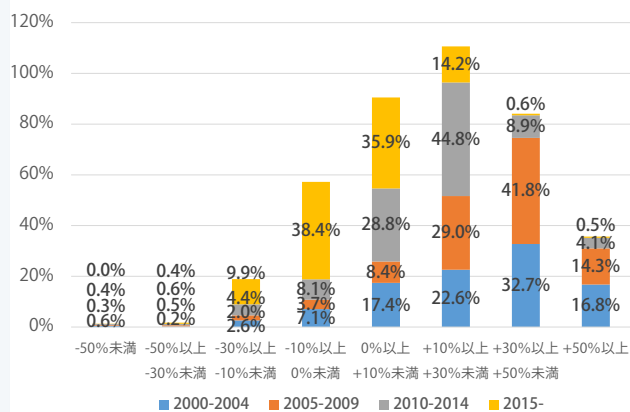
口座開設年別（5 年間）

グラフ④は期間を 5 年間で区切ったものです。

2000 年～ 2004 年のお客様の運用損益別顧客比率ですが、0%未満のお客様の比率は、10.5%です。一方 0%以上のお客様の比率は 89.5%となっています。

同様に 2005 年～ 2009 年は、6.4%/93.6%、2010 年～ 2014 年は 13.4%/86.6%、2015 年～ 2018 年 3 月までは、48.8%/51.2%となっています。

グラフ④ 口座開設年別（5 年間）



運用損益別顧客比率を用いてお客様の運用損益を一時点で観察し、比較することは有益と考えられますが、口座開設時期別にその成果を見ますと改めて長期投資は個人投資家の資産形成に資することが分かります。

分散

グラフ⑤は 2018 年 3 月末現在の弊社でお預かりする投資信託の資産区分を表示したものです。

国内外の株式・債券など広く分散している状況がわかります。IFA の皆様がお客様に分散投資によるリスク低減効果を提案してきた証左といえます。

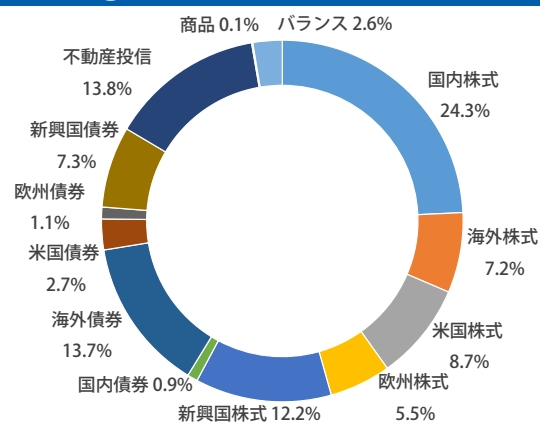
また、グラフ⑥でお客様が保有されている投資信託の銘柄数を見ますと、1～2 銘柄をお持ちのお客様は全体の 12.9%となっていますが、3～5 銘柄をお持ちのお客様は 19.4%、6～9 銘柄をお持ちのお客様は、50.9%を占めます。また平均では 7.2 銘柄を保有されています。

日本証券業協会調査によりますと、投資信託を保有する方のなかで 1～2 銘柄を保有するとの回答は、58.8%にのびります。また平均で 2.3 銘柄を保有しているという結果が示されています*。

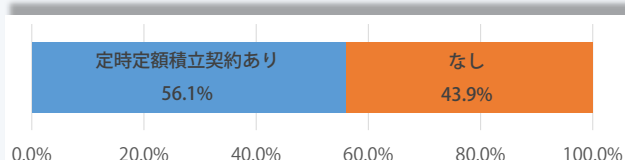
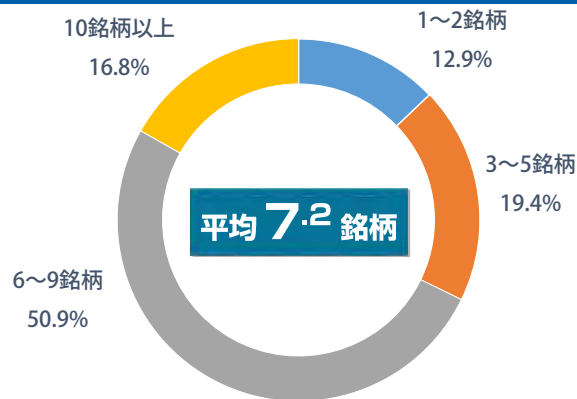
調査結果と比較すると、弊社でお取引いただいているお客様は IFA のアドバイスにより多くの投資信託に分散投資されていることから、このような結果になっていると考えられます。

* 証券投資に関する全国調査（平成 30 年度調査報告書（個人調査）日本証券業協会調査部）による質問「保有投資信託の銘柄数（問 43）」より抜粋

グラフ⑤ 投資信託の資産区分



グラフ⑥ 投資信託の銘柄数



積立

また弊社のお客様のなかで定時定額積立契約（弊社サービス名 アセットアクセル）を結ばれているお客様の割合は、全口座数の 56.1%に上っています。

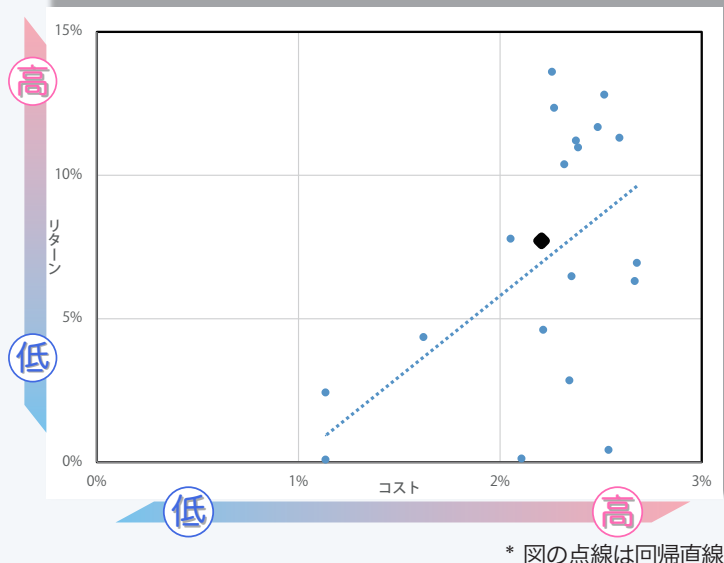
長期・分散・積立

弊社は 1999 年設立以来、金融商品仲介業者の皆様を通じて、投資信託による長期・分散・積立によりお客様の資産形成を支えてきた証券会社です。IFA が独立、公平、忠実な態度でお客様に投資提案をさせていただく姿勢は、これからも変わることはありません。

2

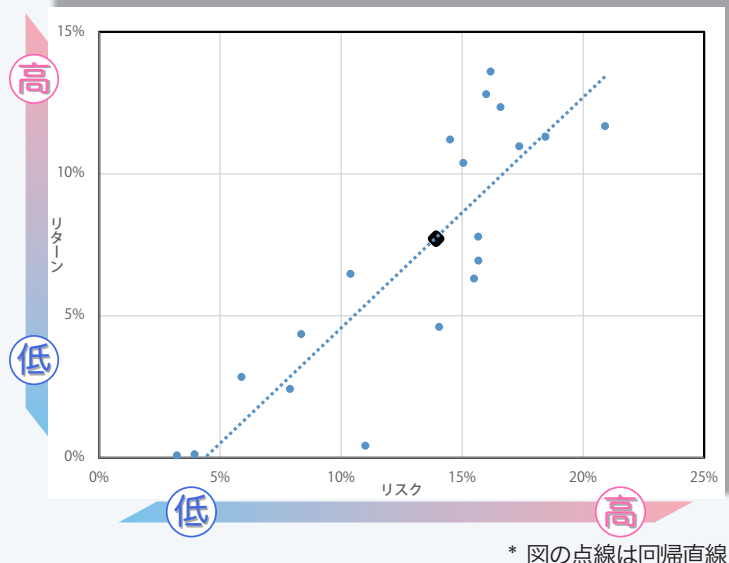
預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン／預り残高上位 20 銘柄のリスク・リターン

預り残高上位 20 銘柄のコスト・リターン



残高加重平均値	コスト	リターン
	2.21 %	7.71 %

預り残高上位 20 銘柄のリスク・リターン



残高加重平均値	リスク	リターン
	13.93 %	7.71 %

3

預り残高上位 20 銘柄の詳細

預り残高上位 20 銘柄の詳細

銘柄名	
1	JPMザ・ジャパン
2	ワールド・リート・オープン（毎月決算型）
3	フィデリティ・欧州株・ファンド
4	フィデリティ・USリート・ファンドB（為替ヘッジなし）
5	三菱UFJ海外債券オープン（3ヵ月決算型）（四季の恵み（海外債券））
6	フィデリティ・米国優良株・ファンド
7	グローバル・ボンド・ポート（Cコース）
8	アジア製造業ファンド
9	朝日Nvestグローバルバリュー株オープン（Avest-E）
10	ブラックロック・USベシック・バリュー・オープン
11	メロン世界新興国ソブリン・ファンド（育ち盛り）
12	エマージング株式オープン
13	キャピタル世界株式ファンド
14	フィデリティ・USハイ・イールド・ファンド
15	BAMワールド・ボンド&カレンシー・ファンド（毎月決算型）（ウィンドミル）
16	フィデリティ・アジア株・ファンド
17	シュローダー・エマージング株式ファンド（1年決算型）
18	エマージング・ソブリン・オープン（毎月決算型）為替ヘッジあり
19	DIAM高格付インカム・オープン（毎月決算コース）（ハッピークローバー）
20	グローバル・ボンド・ポート（Dコース）

■ 投資信託の手数料等およびリスクについて

投資信託のお申込みにあたっては、お申込み金額に対して最大 3.78%（税込み）の購入時手数料をいただきます。また、換金時に直接ご負担いただく費用として、換金時の基準価額に対して最大 0.5% の信託財産留保額をご負担いただく場合があります。投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用として、国内投資信託の場合には、信託財産の純資産総額に対する運用管理费用（信託報酬）（最大 2.376%（税込み・年率））のほか、運用成績に応じた成功報酬をご負担いただく場合があります。また、その他の費用を間接的にご負担いただく場合があります。外国投資信託の場合も同様に、運用会社報酬等の名目で、保有期間中に間接的にご負担いただく費用があります。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動します。従って損失が生じるおそれがあります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。また、上記記載の手数料等の費用の最大値は今後変更される場合がありますので、ご投資にあたっては目論見書や契約締結前交付書面をよくお読みください。

■ 金融商品仲介業者の概要

外務員が所属する金融商品仲介業者の「広告等補完書面」をご確認ください。

■ 金融商品取引業者の概要

商号等	PWM日本証券株式会社 関東財務局長（金商）第 50 号
本店所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目 14 番 1 号 兼松ビルディング 9 階
加入協会	日本証券業協会 一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
苦情相談窓口	法務・コンプライアンス部 電話：03-3561-4104
指定紛争解決機関	特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（FINMAC：フィンマック） 電話：0120-64-5005 平日 9：00～17：00（除く土日祝日）
資本金	30 億円
主な事業	金融商品取引業
設立年月	平成 11 年 4 月
電話番号	03-3561-4100（代表）